

システム開発・保守QCD研究会2021

2022年4月14日

一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会
システム開発・保守QCD研究会

目次

- 1. 研究会の取り組み(目的・内容)**
- 2. 研究会参加企業、参加者**
- 3. 2021年度の取り組み**
～各社の事例発表・共有の成果報告～
- 4. 2022年度の取り組みについて**

1. 研究会の取り組み(目的・内容)

1. 研究会の取り組み(目的・内容)

【研究テーマ】

システム開発における品質・コスト・工期・生産性の改善
《知見を共有しメンバ・企業のレベルアップを図る》

1. 各社事例発表・共有

- ⇒ システム開発・保守における品質・コスト・工期・生産性の向上及び改善にむけた取り組みについて、各社、事例を発表
《自社内への展開含め改善のための事例共有》
- ⇒ 発表事例をもとにグループディスカッションを実施
少人数でディスカッションを行うことで問題の深掘りや、メンバ間の交流を深める(2020年度からの新しい試み)

2. 研究会参加企業、参加者

2. 研究会参加企業、参加者

投影のみ

NO		会社名	ご参加者氏名
1	部会長		
2	副部会長		
3	副部会長		
4	副部会長		
5	副部会長		
6	副部会長		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

2. 研究会参加企業、参加者

投影のみ

NO		会社名	ご参加者氏名
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27	アドバイザー		

	事務局	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会	
	事務局	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会	

23社(団体)27名(除くJUAS)の方が参加

3. 2021年度の取り組み ～各社の事例発表・共有の成果報告～

各社事例発表

参考になる取り組み事例を紹介。質疑応答も積極的。
研究会メンバー各社の知見の共有に繋がっています。

- **開催日時**
 - ・ 基本毎月第1火曜日 15時00分～18時
⇒ 2021年度は全10回で、うち8回の各社事例発表会を開催
- **1回の発表数**
 - ・ 3テーマ
⇒ 2021年度は、合計24テーマの発表がありました
(特別講演会含む)
- **発表・質疑時間**
 - ・ 発表:約35分
 - ・ 質疑応答(意見交換):約5分
- **グループ・ディスカッション(各テーマの発表終了後テーマごとに分かれて)**
 - ・ 約30分
 - ・ 発表テーマごとに分かれてディスカッション。(ZOOMのブレイクアウト機能を利用)

参加者への依頼事項

有意義な場とするためにメンバーにお願いしていること

- **Give & Takeを前提**に各社メンバーが年1回事例を発表
- 発表に対しての質疑・意見交換
 - ・ 発表者への質問から研究会メンバー間の意見交換へ
- **発表内容は可能な限り具体的内容で**
 - ・ 公開できる範囲内で、より具体的内容であること
 - ・ 発表者自身が関与し改善に取り組まれた内容であること
- 事後アンケートの入力
 - ・ 各発表におけるアンケート内容は発表者にフィードバック
 - ・ アンケート結果の良い発表テーマは年度末に表彰！！
 - ・ アンケート回答皆勤賞の方も年度末に表彰！！

2年目のオンライン開催

新型コロナの影響により集合形式を諦めオンライン開催

- 昨年度に引き続き、ZOOMを活用したオンライン開催となった。
- 年末にはコロナ感染状況が落ち着きを見せたため、集合＋オンラインのハイブリッド開催を模索するも、年明けからの感染拡大があり断念。
- 昨年度はバタバタのまま始まったが、オンライン開催も2年目となり、運営も徐々に慣れてきた。

2年目のオンライン開催

オンライン開催を振り返って(傾向は昨年と変わらず)

● 良かった点

- ・ 移動時間がかからないため、ロケーション(東京、大阪、その他)に関わらず参加しやすい。
- ・ 集合形式より出席率が高かった。
- ・ 集合形式時は紙資料だったが、オンライン形式への変更にて資料も電子化。(配布の範囲は限定)

● 工夫した点

- ・ オンライン時のルール作り(個別ルームやヘッドセット推奨、カメラ基本ON、発言時以外はミュート、チャットでの質問受付)
- ・ 幹事団のコミュニケーションツールとしてSlackを導入。
- ・ 事例発表後にテーマごとにチームを分けて、グループディスカッションを開催。小グループでより深いコミュニケーションを取れる環境を設けた。(ZOOMの機能を活用)
- ・ **リモート環境での会員間のコミュニケーション向上に向けオンライン合宿を企画し、実施した。**

2年目のオンライン開催

オンライン開催を振り返って(傾向は昨年と変わらず)

● 悪かった点

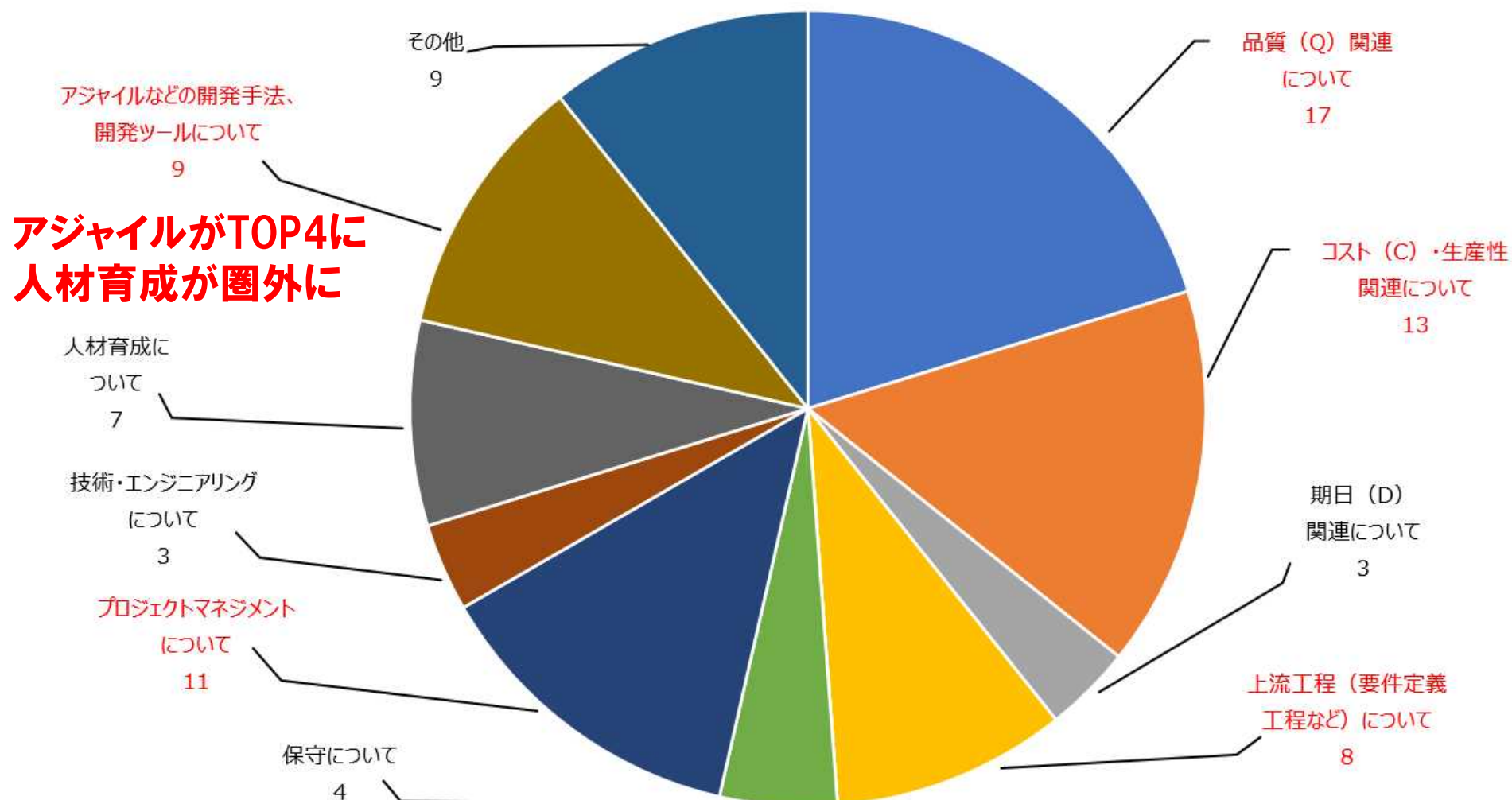
- ・ 研究会活動は人脈形成も大きなメリットも一つであるが、個々人のつながりを深めることは難しかった。
- ・ 定例会後のオンライン懇親会を2回開催したが、集合形式時より出席率が低かった。
- ・ 昨年、会員個人間の繋がりを深める事が難しかった事への工夫として、メンバー全員が参加できるSlackのチャンネルを設けたが、活性化しなかった。

事前アンケート

2021年度版

聞きたいテーマ、各社課題認識がある項目は事前アンケート結果は以下の通りです。
回答が多かった項目は以下。各社事例発表テーマを準備する上で参考にしてください。

1位:品質関連、2位:コスト関連、3位:プロジェクトマネジメント、4位:アジャイル関連、5位:上流工程の課題



事例発表テーマ大方針

各社事例発表のテーマについて、事前アンケートを参考に以下を大方針として準備をお願いした。

合宿テーマに関連するテーマ

1. システムの品質や生産性の維持・向上について
2. コロナ禍におけるプロジェクトのQCDについて
(プロジェクト管理とか品質管理とか)
3. コロナ禍における人材育成～離れてどう育成していくか～

QCD向上に関連するテーマ

例:プロジェクト事例紹介(成功、失敗)、
全社レベルの品質改善、生産性向上への取組、
メトリクス活用事例、人材育成、上位工程の改善取組
(要件定義工程での品質評価方法etc)

2021年度、オンライン合宿やってみました

合宿の概要

- **開催日時**

- ・ **2021年7月9日(金) 13:00－18:00**
- ・ **終了後、懇親会あり。**

- **合宿の目的**

- ・ **成果物を作り上げることが目的ではない。**
- ・ **それぞれのテーマについて自由な情報交換を行い、各自の知見を広げる。**
- ・ **リアル合宿ができないので、せめてオンライン合宿で懇親を深める機会を作りたい。**
- ・ **成果物(メモ程度でいいので)は最後に研究会メンバーに共有する。**

テーマごとのグループ分け

A. システムの品質や生産性の維持・向上について

10名→5名×2グループ

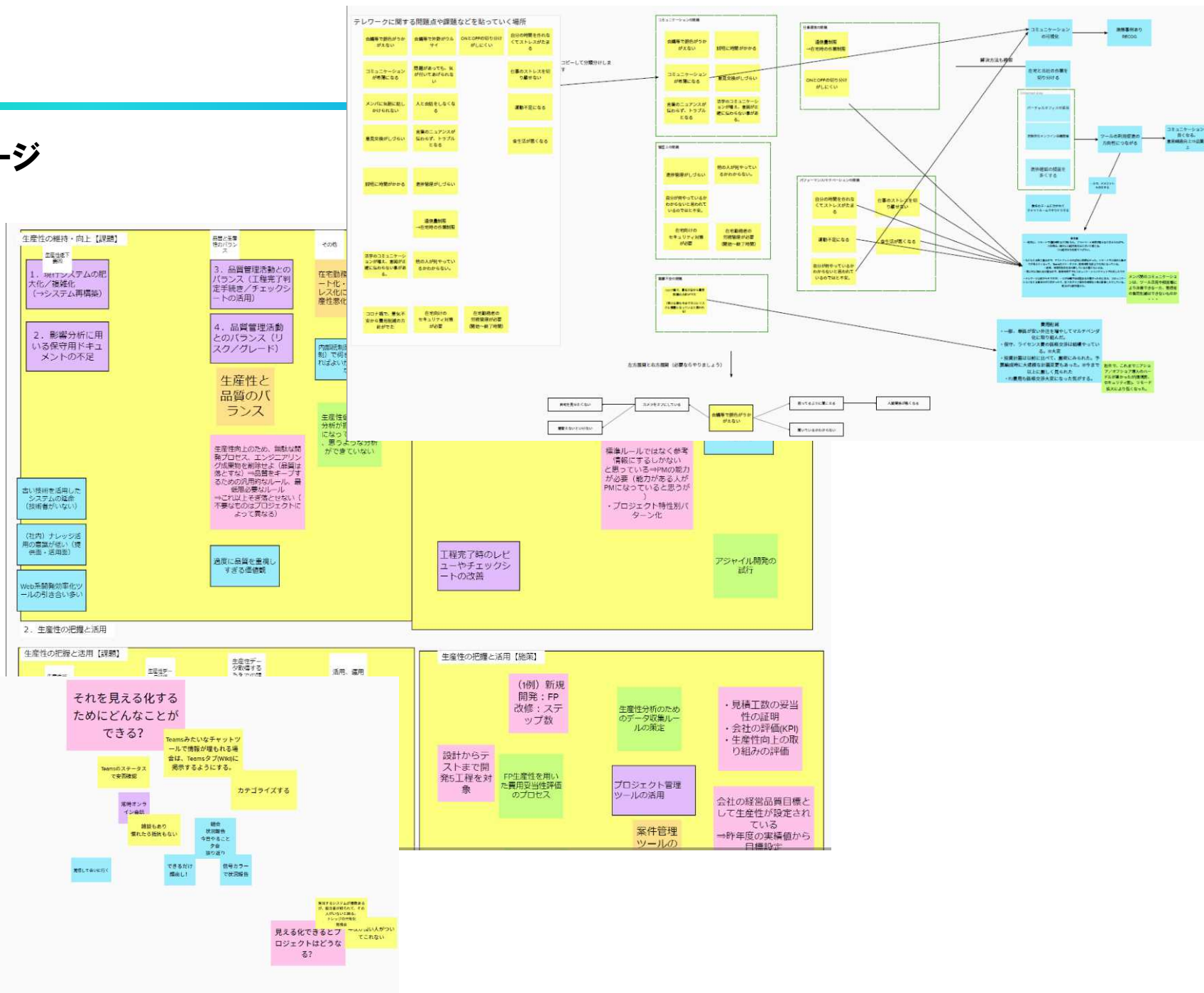
B. コロナ禍におけるプロジェクトのQCDについて(プロジェクト管理とか品質管理とか)

10名→5名×2グループ

C. コロナ禍における人材育成～離れてどう育成していくか～

5名→1グループ

MURAL画面イメージ



EXCEL画面イメージ

A2：システムの品質や生産性の維持・向上について（上流工程や移行の品質向上策）

(Y) 今までにやったこと、工夫したこと

(W) わかったこと、気づいたこと

(T) 次にやってみたいこと (壁になりそうなことも)



POWERPOINT画面イメージ

2021JUA5_QCD研究会_オンライン合宿
Cチームディスカッション結果
【テーマ】
コロナ禍における人材育成
(リモートワーク・テレワークでどうやって育成するか)

テレワークでの課題

- ①コミュニケーション不足
 ・ ちゃんとしたことへの確認やヒアリングへの躊躇
 ・ 新人とアドバイザーともにも在勤者のため、報告・連絡・相談が不足しがち
 ・ 新人社員とのやりとりで顔が見えないため、コミュニケーションがとりづらい
 ・ 会談や定例会のコミュニケーション不足
 ・ 在宅勤務形態が通う（7時始業、10時始業など）ので会話しる機会が合わせない
 ・ 特に、若手（若手の報告・接点）が減少。（リアルでも難しかったのに尚更）

テレワークで良くなった事や 良い事例

オンライン合宿を振り返って

（実施後のアンケート結果から一部抜粋）

- ・ テーマ別で他社さんで実施されている内容を詳細に確認できとても有意義な時間でした。
- ・ 同じテーマ内で他社の方と意見交換できたことは良かった。
- ・ チームの皆さんと意見交換ができたので、とても有意義な時間でした。
- ・ 今年度から初参加で期待と不安の中、オンライン合宿に参加させて頂きました。長時間でしたが結構あっという間に終わった感じがします。

（オンライン合宿を実際にやってみて）

研究会活動が始まってすぐのイベントということで、不安な声もたくさんありましたが、結果的にはコミュニケーションが深まったり、良かったというご意見をたくさんいただきました。

次年度も引き続き、オンライン合宿を企画する予定です。

2021年度、発表されたテーマは・・・

発表テーマ

項目	発表テーマ
実績発表数1位 品質(Q)関連	① 構築するシステムの運用品質を守るための取り組み ② システムテストにおける品質改善の取り組みについて ③ 通販システムにおける品質維持改善活動のご紹介 ④ xx社品質保証部の活動と成果 ⑤ システムトラブル発生時の当社の仕組み・取り組みのご紹介 ⑥ 【JUAS】QCD研究会～xx社取組事例紹介～ ⑦ 品質向上の取り組みと開発事例のご紹介 ⑧ 2021年度の品質活動ご紹介
実績発表数2位 コスト(C)・生産性関連	① ファンクションポイントを用いたシステム開発費用の定量評価 ② QCD・生産性の源泉は人の活躍にあり ③ 品質・開発生産性向上の取組みについて
実績発表数2位 保守について	① 保守運用の品質改善活動のご紹介 ② 保守領域における障害低減活動のご紹介 ③ 大規模システムリリースに向けた保守運用の検討課題の取り組み

発表テーマ

項目	発表テーマ
アジャイルなどの開発手法、開発ツールについて	① アジャイル開発への取り組みと事例のご紹介 ② 顧客と協業し新規プロセス（アジャイル開発の定量管理）を導入したプロジェクト事例紹介
プロジェクトマネジメントについて	① 店舗システム利便性向上の取り組み ② プロジェクトマネジメントノウハウのナレッジ化取組
上流工程（要件定義工程など）について	① 上流工程における注意事例の共有
人材育成について	① xxグループにおけるICT人材育成の取組について
設計・製造・検証工程について	① xx社DevOpsStandard

発表テーマ

項目	発表テーマ
その他	① 独自のSRMモデルによるチーム・コンピテンシーの向上 ② 次世代システム・開発態勢へのシフトに向けた取り組み ③ リモートワークにおける各種取り組み

2021年度の発表内容の傾向

品質に関する発表テーマが多い

⇒ 今年度も事前アンケート及び実績ともにテーマ数として1位。5年連続同じ結果。

品質優先、及び各企業の課題認識が高い傾向が続く。
各企業の品質向上に向けた取り組み活動が多く発表された。

コストや生産性関連のテーマが増加

⇒ 昨年は関連テーマの発表がなかったが今年度は再び2位まで上昇。
コスト低減よりかはコスト適正化や生産性向上の取り組みなどの事例発表があった。

保守に関するテーマはコンスタントに事例発表がある

⇒ 以前は大規模システム更改案件の事例紹介が多くあった印象だが、更改後の保守を中心とした事例発表が毎年コンスタントにある。

コロナ禍のQCD活動やテレワークについて

⇒ 昨年度よりテレワークに特化した発表テーマ件数は少なくなったが、それを前提とした上での取り組みとなってきている。

アンケート結果が高かった発表内容

テーマ	概要
アンケート評価1位 大規模システムリリースに向けた保守運用の検討課題の取り組み	・ 大規模刷新プロジェクト後の保守運用について整理 ・ 保守の生産性についての評価 ・ ナレッジ共有による品質向上
アンケート評価2位 システムトラブル発生時の当社の仕組み・取り組みのご紹介	・ システム障害の管理手順の紹介 ・ ヒューマンエラー対策の事例紹介 ・ ITマネジメントシステムの紹介
アンケート評価3位 アジャイル開発への取り組みと事例のご紹介	・ アジャイル開発に取り組む前の準備について ・ アジャイルのプロジェクト事例紹介 ・ プロジェクト管理ツールの紹介
アンケート評価4位 顧客と協業し新規プロセス(アジャイル開発の定量管理)を導入したプロジェクト事例紹介	・ 人間系にフォーカスを当てたプロジェクトマネジメント ・ アジャイルとウォーターフォールを並走させたプロジェクト ・ 開発モデルを顧客に提案してプロジェクトを推進
アンケート評価4位 XX社DevOpsStandard	・ 開発者向けポータルサイトの整備 ・ アクセス状況を監視して活用状況を可視化 ・ ポータルサイト内でeラーニングも実施

4. 2022年度の取り組みについて

2022年度の取り組みについて

**2022年度も事例発表、ディスカッションにて、
開発・保守のQCDを中心に研究していきます。**

1. 各社事例発表・共有

**⇒ システム開発・保守における品質・コスト・工期・生産性の向上
及び改善にむけた取り組みについて、各社、事例を発表。**

《自社内への展開含め改善のための事例共有》

**⇒ 毎月の定例会にて当日発表された事例テーマをもとにグループ
に分かれ討議。**

**知見の共有や交流を深める目的でディスカッションの機会を増加。
(2020年度からの新しい取り組みを継続)**

→あえて、成果物を作成しない。

まとめを意識せずに短時間で濃い意見交換を目指す。

2022年度の取り組みについて

オンライン合宿を企画(継続)

合宿がなくなったことでコミュニケーションの機会が減り、人脈の構築が難しかった。

- 実際の合宿は難しいため、オンラインでも同じような企画を実現。
 - チームに分かれてディスカッションを重ねることで、より深い知見の交換や人脈形成を促進したい。
-
- 合宿は金曜日・土曜日の1泊2日で実施されていたが、オンライン合宿は金曜日半日で開催予定。
 - 今年度から初参加の方の不安解消と、合宿でのコミュニケーション活性化を念頭に以下の点を見直す。
 - ①合宿の開催時期を「7月→8月」に変更
 - ②6月7月のグループディスカッションは「合宿と同じメンバー」で開催

ご清聴いただきありがとうございました。